

2024年度 第4回7月期定例番組審議会議事録

1. 開催の日時 2024年7月10日(水)
2. 開催の場所 栃木放送本社会議室
参加できない委員には資料を送付して番組をお聞きいただき、意見・感想を返信してもらう形式で開催。
3. 委員の出席 委員総数9名
返信総数2名
出席総数7名

| | | |
|-------|------|------|
| 出席委員名 | 委員長 | 増田仲夫 |
| | 副委員長 | 河又弘子 |
| | 委員 | 竹内明子 |
| | 委員 | 石松英昭 |
| | 委員 | 若井明香 |
| | 委員 | 高橋久夫 |
| | 委員 | 小川俊彦 |
| | 委員 | 藤原紀沙 |
| | 委員 | 井出智子 |

4. 議 題

(1) 「食わず嫌わず」

放送日 毎週木曜日 21:30~22:00

直近放送2回分 6/6 と直近 6/13 放送分を試聴

(2) その他

5. 議事内容

(1) 「食わず嫌わず」について

番組視聴：放送した番組を各委員に送付して試聴して頂きました。

議題説明

放送日時・・・毎週木曜日 21時30分～22時00分

放送開始・・・2015年7月～(今年で10年目)

出演者・・・清水孝宏・大吉真琴(macotti)

企画制作/編集・・・栃木放送編成部 飯島慎

収録運行&録音・・・宇都宮メディア・アーツ専門学校の学生たち

【企画意図】

色んなジャンルの音楽やトピックスを食わず嫌いせずに取り上げていくというコンセプトから“食わず嫌わず”という番組名に。番組立ち上げからのMCである清水孝宏はもちろん、芸人である永井墨、アーティストのサスケなど、多方面で活躍する人材をパーソナリティに据えた音楽にも特化した番組です。またこの番組は栃木放送と宇都宮メディア・アーツ専門学校との産学連携事業の一つでもあり、収録を行うのは現役の専門学生であることもこの番組の大きな特徴です。

学生はより実践的な内容でカリキュラムに取り組み、栃木放送としても自社はもちろん若年層に向けたラジオ自体の認知度UPにも貢献している番組です。

【企画】

「MUSIC of GAD」

現在の番組パーソナリティである清水孝宏と macotii は共にアーティスト活動を行っているのでその二人の楽曲を一月ごとに交互に流しています。

「GAD のボヤキ」

お題を元にしたフリートーク枠。パーソナリティー二人のユニット名 GAD(ガッド)は英語で”出歩き” “ぶらつく” などの意味があることから、”二人が散歩しながら話をするイメージ”でゆったりゆったりとした雰囲気トークする時間です。

毎週2～3個のお題を切り口にトークを進めていますがトークの合間には“箸休め”としてその月や季節を感じる楽曲などを一曲流しています。

専門学生も基本は当日の録音にまつわるオペレートのみですが、アンケート形式でお題やリクエストも募集しそれらを採用するなど学生自体のモチベーション向上にも役立っています。

各委員からは

- 学生が実習できる番組であり、スポンサーがついていて、そのスポンサーは学校のPRができ、出演者は自分の曲をかけることができるというところまでは良かったです。しかし、その後が問題でした。番組の内容がつまらなく、何をリスナーに伝えたいのか全然わかりませんでした。音楽と話の内容が全くリンクしていないことも残念でした。たとえば、急に「ジューンブライド特集です、この音楽です」と言われても、何の繋がりも感じられませんでした。内輪で笑っているだけで、リスナーに何を聞いてほしいのかが不明確でした。リスナー向けにもっと内容を考えるべきだと思いました。音楽番組なのに、音楽の話が少なく、二人のアーティストがパーソナリティならもっと音楽のネタを取り込むべきだと感じた。

- お題に基づく二人の話が面白かった。二人のトークの中で施設名などが上がると、その施設に行った当時の自分の思い出なども浮かび、ほのぼのとした気持ちにもなった。また、お題も良く、自分もお題についてどうしようか考えていた。夜の9時台の番組であり、音楽も重たくなく普段聞くことのできない曲で、楽しく心安らかに聞くことができた。二人のトークのテンポもよく、笑いもあり、楽しく話を聴くことができた。産学官連携の一環として、専門学校が放送に携わっていることは非常に貴重な体験であり、実学を学ぶうえで本当に良い取り組みであり応援したくなった。

- 私は、この番組に非常に好感を持ちました。一口で言うと、10年近く続く番組ということで安定感とバランスの取れた番組だと思います。コンセプトがいろんなジャンルの音楽とトピックスを取り上げるというもので、放送時間帯や構成、出演者の語り口や曲も非常に気楽で優しく、時には笑いながら聞ける内容でした。放送時間は夜9時半から30分ということで、お酒を飲みながら家で聞いたり、遅く帰宅する車の中で聞いたり、若い人から中高年まで幅広く対象にできる時間帯です。内容もそれに合っていると感じました。番組の構成も、曲とトークが交互にあり、中だるみがなく、だらだらしている感じがありませんでした。トークの内容はいつでもいいことが多いですが、それがかえって気楽に聞けて良かったです。リスナーに考えさせたり想像させるようなお題も良い塩梅でした。地元ネタもやりすぎず、程よいバランスだと思った。ただ、持ち味なのかもしれないが2人のトークがやや低調になる場面もありました。そういう時には、リスナーがメールやお便りで参加できるような仕組みがあると、変化が生まれて良いかもしれません。

○いろいろなジャンルの音楽やトピックスを取り上げているのが良かったです。普段ラジオをあまり聞かない私でも、さらっと何かしながら聞ける番組だと思いました。2人のパーソナリティーの掛け合いも和気あいあいとしていて、緩い感じが良かったです。また、宇都宮メディアアーツ専門学校の学生が制作や運営に携わっている点も素晴らしいと思いました。技術者育成を目指す産学連携として、とても良い仕組みです。ただ、学生が番組内容にももっと関わって、アイデアやネタを出すようにすれば、さらに若者向けになるかもしれません。音楽番組だとは思っていなかったのも、中身がないとかコンセプトがはっきりしないという意見もありますが、それが逆に聞き流しやすいという利点もあります。私も実際に食器洗いながら聞いていました。確かに内容はあまり残りませんでしたが、そういう点もいいのかもしれない。また、パーソナリティーの2人が盛り上がっている感じは良かったです。もう少しリスナーや若年層に向けた内容があっても良いと思います。

○年のせいかもしれませんが、この番組は全然合いませんでした。騒がしくて仕方ありません。笑いが下品でとても気になった。掛け合いのテンポは良いのですが、30分が長く感じるほど内容が薄い。中身がない話ですが、若者向けとしては良いかもしれません。FM 対策としては適して、若者のリスナーを取り込むには良いと思います。しかし、CRTさんの番組はどちらかというと知的な感じがあるので、今回の番組は軽すぎて内容がなく、騒がしすぎる印象です。曲の選び方についても、番組の内容と連動していないとの批判もありましたが、曲そのものは良く、若者向けとしては適していたと思います。

○現役の専門学生たちが実践的な経験を積む場となっている番組とのことで、非常に貴重な番組であると感じました。実際の放送局の機材を使用し、自分たちが携わった番組が実際に放送されるという経験は、若い人材の育成にとって非常に重要であり、特に評価できると感じました。番組の資料に書かれていた、アンケート形式でお題やリクエストも募集しそれらを採用するという試みはよいと感じました。収録番組のためか、今回のサンプルにおいてはそれほど差が感じられず、全体的に安定していると感じました。6/13の回では学生が関わっていることをアピールするためか、収録メンバーを「パリピ」と説明する部分がみられました。おそらく活気がある現場なのかなとは想像できますが、特性でなく、より専門的な内容や若者らしい視点や提案で、学生たちの関与をアピールできるとよいかと思いました。また、音楽は若者らしさが感じられる一方で、他の世代のリスナーにも受け入れられやすいような選曲と感じました。若者が携わっていることで新たな若年層の取込みにどのような効果が出ているかには疑問が残りましたが、若者が実践的な経験を積む場を提供するだけでなく、他の世代のリスナーにも若者らしい新しい視点や知識を提供することができるという点で今後の展開に期待しています。

○この番組が昔のラジオみたいで、疲れずに流しながら聞ける本当に良いラジオだと思いました。夜のラジオのイメージに合っていて、2人の掛け合いと音楽が間に挟まる30分が長く感じず、軽快な話が心地よかったです。男性パーソナリティ2人の会話も嫌な感じではなく、女性でも気持ちよく聞けました。この番組が10年間続いているのは本当に素晴らしいことだと思います。学校と産学連携の一環として、学生がもっと関わっていることをリスナーに伝える工夫があると良いですね。音楽の選曲も非常に良く、深夜の時間帯にフルバージョンで長く聞けるのは嬉しかったです。専門学校との連携だけでなく、高校生の放送部や大学の放送といった他の教育機関との単発的な協力も取り入れると、学生の放送業界やマスコミへの興味を引き出し、インターンシップ的な機会を提供することで学生の意欲も湧くのではないかと思います。

○2人の掛け合いは、聞いていて本当にしんどかったです。意味もなく笑うのが辛く感じました。笑いを控えることも必要かもしれません。私も若くないので、このように感じたのかもしれませんが。音楽番組としてのタイトルに沿っているとは思いますが、産学連携ならば、専門学生にパーソナリティーが本当に適しているかどうかをアンケートなどで確認する必要があると思いました。これによって番組を広め、学生がもっと聴くようになるかもしれません。

○中高年層リスナーが多い中で、若者向けに学校の実習も兼ねた産学連携の番組としては良いと思いました。2人の軽快で自由なトークはくつろいで聴ける点も良かったです。ただ、コンセプトとしていろんなジャンルの音楽を放送するはずなのに、音楽が少なく、ほとんどが2人のトークでした。これでは音楽番組とは言えず、番組名を変えた方が良いと思いました。また、トークでも初めて聞くリスナーに分かりやすい修飾文をつけるべきです。例えば、「この曲は〇〇さんが選曲した」と言う場合、〇〇さんが誰なのかを説明する必要があります。パーソナリティー、マコッティーさんが茨城県出身で茨城好きだということも初めて聞いた方むけにトーク内で説明したほうが良いと感じた。さらに、番組へのお便りやメールなども入れると良いと思いました。

当社としては、これらの意見をもとに、今後の番組制作や広報に取り組んでいきたい旨を、各委員に伝えた。

(2) その他

6. 審議内容

上記の通りであり、特に審議決定し、答申すべきものはなかった。

7. 番組審議会の意見の概要の公表

- ① 当社の番組「栃木放送からのお知らせ」（2024年8月4日）
- ② 当社のホームページに掲載（2024年8月5日）
- ③ 当社事務局に議事録備え置き（2024年8月6日～）

以上